

科目名	キリスト教学Ⅰ		科目ナンバリング	L-GECHO-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G51000		30時間				
区分	一般教育科目	必修	担当者名	楊 尚眞			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教の本質を学び、理解することにおいて、その研究対象は、古代・中世・近世・現代のキリスト教の歴史、聖書・信条・キリスト教思想である。この科目授業において、イエス・キリストの生涯を中心にキリスト教の本質を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>キリスト教を学び、理解することを通して、本学の建学精神である「畏神愛人」という生き方を多面的に探求することを学ぶ。また、キリスト教信仰と文化を幅広く理解し、人間とは何なのかを一層深く理解する態度を養い、理解する主体である「自分」を内省する視点を習得する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	神の言葉である聖書		旧・新約聖書の構成、聖書の信憑性、聖書と啓示					講義と課題解決型学修		
第2回	神の子イエス・キリスト①		イエスの時代的背景、イエスの福音宣教活動、イエスの説教、					講義と課題解決型学修		
第3回	神の子イエス・キリスト②		イエスの奇跡の働き、イエスの教育、イエスの三つの役割、					講義と課題解決型学修		
第4回	神の子イエス・キリスト③		貧しい者への関心、障がい者や病人に対する関心、					講義と課題解決型学修		
第5回	神の子イエス・キリスト④		イエスの受難、復活、昇天、再臨					講義と課題解決型学修		
第6回	キリストの神		神の存在、創造主である神、啓示の神、聖霊の神、					講義と課題解決型学修		
第7回	神の霊である聖霊		聖霊の働き、聖霊と火のバプテスマと聖霊充滿					講義と課題解決型学修		
第8回	三位一体論		三位一体の神					講義と課題解決型学修		
第9回	キリストの体なる教会		教会の誕生、教会の本質と特徴、教会の機能					講義と課題解決型学修		
第10回	天国論と地獄論		旧・新約聖書と死後の世界、死後の世界である天国と地獄					講義と課題解決型学修		
第11回	天使論と悪魔論		聖書と天使の存在と働き、聖書と悪魔の存在と働き					講義と課題解決型学修		
第12回	キリスト教人間論		人間とは何か、人間と神との関係、人間の自己喪失と回復、原罪					講義と課題解決型学修		
第13回	キリスト教信仰		信仰と救い、信仰生活、信仰の構成要素、知性、感情、意志、					講義と課題解決型学修		
第14回	キリスト教礼拝		礼拝という言葉の意味、礼拝の本質、聖礼典					講義と課題解決型学修		
第15回	まとめ		授業の総括							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1. 期末試験 (30%) 2. 講義への参加態度 (30%) 3. 礼拝出席 (20%) 4. 礼拝感想文 (20%)</p> <p>キリスト教についての基本的理解を示す試験問題を出し、キリスト教に関する一般知識を評価する。</p> <p>講義への参加態度と礼拝出席は積極性を評価、礼拝感想文は説教に照らして自己省察の内容と論理性を評価する。</p>									
課題 等	<p>課題の礼拝感想文の内容において要求され評価される4つの事柄をフィードバックとして講義で説明する。</p>									
事前 事後 学修	<p>教科書の内容を予め精読し、講義後においては理解した事柄をノートに整理する。予習と復習のために一日1時間を費やす。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>1. キリスト教の世界 (楊尚眞著) 2. 聖書 3. 讃美歌21</p>									
留意 点	<p>講義と礼拝は必ず出席。講義においては質問やディスカッションを奨励。オフィスアワー：水曜日10時 - 18時</p>									

科目名	キリスト教学Ⅱ		科目ナンバリング	L-GECHO-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目コード	G51001		30時間				
区分	一般教育科目	必修	担当者名	楊 尚眞			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教を学び理解することは単に知的認識にとどまらず、その人の考え方、生き方や態度に影響を及ぼす。聖書を通して神を知り神の真理を知ることが、人間側に全人格的な経験と関係呼び起こし、神の意思に向けて決断を迫る生きた返答を生み出す。日常の人間関係の問題に目を向け、それらの諸問題に対してキリスト教的な思考と解答を生み出すことによって、創造主である神の前にて責任のある倫理的な生を生きることが出来る。本科目授業では、聖書の教えに基づいて人間の実存的で普遍的な問題を捉え、キリスト教的な解答を追及すること試みる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>神は、人間を自由な存在として創造し、人間は自由意思をもって生きる存在であるが、人間が神を知り、神を畏れ、歴史の中で働く生きた神との関係に入り、生活のあらゆる領域において倫理的な決断をすることを求める。本学の建学精神である「畏神愛人」の「畏神」は神に対しての关系的・経験的な知り方を意味する。「神を畏れることは、知恵の初め」(箴言1：7)とあるように、この世のすべての問題解決への真の知恵である聖書の価値観を学び、学習者の思考形成、人間形成に寄与するようになることを目標とする。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	キリスト教の人間関係論		関係優先教訓、関係の法則と技術、関係法則の伝達方法					講義と課題解決型学修		
第2回	キリスト教の自画像論		自己の回復、自画像と他者との関係、肯定的自画像形成					講義と課題解決型学修		
第3回	キリスト教の人間理解論		人間の実存の理解、自分と他者の相違点の理解					講義と課題解決型学修		
第4回	キリスト教の責任論		人間関係崩壊の原因、責任の法則と成熟なる関係					講義と課題解決型学修		
第5回	キリスト教の憤慨管理論		憤慨の原因、憤慨の理解、憤慨の管理					講義と課題解決型学修		
第6回	キリスト教の容赦論		心の傷と治癒、神の愛と治癒、赦しと人間関係回復					講義と課題解決型学修		
第7回	キリスト教の友情論		友情と隣人愛、友情と賞賛、友情と自己犠牲、友情と苦難の克服					講義と課題解決型学修		
第8回	キリスト教の対話論		対話の重要性、成熟な対話の学び、対話の法則					講義と課題解決型学修		
第9回	キリスト教の傾聴論		傾聴の重要性、傾聴の方法					講義と課題解決型学修		
第10回	キリスト教の親切論		イエスの親切心、親切心と隣人愛、親切心と成長					講義と課題解決型学修		
第11回	キリスト教の激励論		激励と自己の超越、激励の意味、激励の原理					講義と課題解決型学修		
第12回	キリスト教の葛藤克服論		葛藤問題の肯定的な面と否定的な面、葛藤問題克服の聖書的方法、					講義と課題解決型学修		
第13回	キリスト教の称賛論		称賛の意味と目的、称賛の技術、称賛と人間関係					講義と課題解決型学修		
第14回	キリスト教の関係回復論		人間関係回復の方法					講義と課題解決型学修		
第15回	まとめ		授業の総括							
評価方法及び評価基準	<p>1. 期末試験 (30%) 2. 講義への参加態度 (30%) 3. 礼拝出席 (20%) 4. 礼拝感想文 (20%)</p> <p>キリスト教についての基本的理解を示す試験問題を出し、キリスト教に関する一般知識を評価する。講義への参加態度と礼拝出席は積極性を評価、礼拝感想文は説教に照らして自己省察の内容と論理性を評価する。</p>									
課題等	課題の礼拝感想文の内容において要求され評価される4つの事柄をフィードバックとして講義で説明する。									
事前事後学修	教科書の内容を予め精読し、講義後においては理解した事柄をノートに整理する。予習と復習のために1日1時間を費やす。									
教材教科書参考書	1. キリスト教の倫理・道徳 (楊尚眞著) 2. 聖書 3. 讃美歌21									
留意点	講義と礼拝は必ず出席。講義内容に関する質問やデスクッションを奨励。オフィスアワー：水曜日10時 - 18時									

科目名	キリスト教音楽		科目ナンバリング	L-GECHO-02. U	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G51002		30時間				
区分	一般教育科目	選択	担当者名	竹佐古 真希 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	【授業の主旨】 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	隔年開講につき、今年度開講せず									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	キリスト教文化		科目ナンバリング	L-GECHO-03. UN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G51003		30時間				
区分	一般教育科目	選択	担当者名	坂井任、井上諭一、今村かほる、入江英弥、鎌田学、川浪亜弥子、顧偉良、佐々木正晴、佐藤和博、畠山篤、エドワード・フォーサイス、スティーブン・マックウィニー、松橋俊輔、楊尚眞			授業 形態	講義	オムニバス	
	日本語教員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>キリスト教は宗教として信仰されてきただけでなく、文化的にも大きな影響を与えている。その範囲は広範で、思想・倫理・文学・芸術・建築・制度・法律・習慣・言葉・歴史など枚挙に暇がない。キリスト教が生み出した文化は、信者であるか否かに関わらず、人類の大きな遺産であるといえる。この授業では、様々な専門分野の視点から、文化をキリスト教という側面から考えてみる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	キリスト教が日本および世界の文化に多種多様な影響を与えていることを理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	日本キリスト教史			1549年フランシスコ・ザビエルによって日本にキリスト教が伝えられた時から1945年第二次世界大戦の敗戦時に至るまでのキリスト教の歴史について学ぶ。				9/28：楊尚眞		
第2回	神の存在証明をしてみよう			西洋では、神学者たちが神が存在することを証明しようと長年苦心してきました。その努力の一端を覗いてみて、もし自分だったらどのように証明するか考えてみましょう。				10/5：鎌田学 資料はコピーにて配布		
第3回	聖書での記載事項と心理学の基本的な方法との齟齬			多数の中における一個人の存在意義に関する捉え方が聖書と心理学とで異なる。その具体例について紹介し、いずれの立場を選択するか、その判断基準を探索する。				10/12：佐々木正晴		
第4回	ハロウィーンの歴史			キリスト教会の歴史から現在のハロウィーンがどうやって進化を遂げたかについて話す。グループワークでディスカッションします。ICTを使って内容を評価しますので、履修者がスマートフォンをお持ちください。				10/19：エドワード・フォーサイス		
第5回	キリストと安寿姫			津軽のイタコ(女性シャマン)の語る「お岩木山一代記」は、太陽神とその神の妻が神の娘を産み、その神の子が岩木山の神になり、悩める人々を救う話である。何とキリストの誕生と行為に似ていることか。				10/26：畠山篤		
第6回								11/2：畠山篤		
第7回	イギリスにおける宗教改革			シェイクスピアが活躍した時代におけるイギリスでのキリスト教信仰キリスト教信仰とシェイクスピア作品の関係				11/9：川浪亜弥子		
第8回	キリスト教と現代小説(附、サブカルチャー)			20世紀後半から21世紀にかけて活動した小説家のうち、キリスト教の影響の強いと思われる人の仕事を読んでみます。具体的には飯田寛夫と庄野潤三の二人を中心としますが、他の作家にも触れます。なお、十分な時間は取れませんが、マンガなどのサブカルチャー領域におけるキリスト教の影響についても、概説します。				11/16：井上諭一 資料はコピーで配布します。		
第9回	潜伏キリシタンの文化			日本における潜伏キリシタンの文化について映像を見ながら紹介し、その実態を捉える。とくに、信仰集団の形成や、オラショと呼ばれる祈祷の言葉の伝承に焦点をあてる。				11/30：入江英弥		
第10回	ジョン・デューイの宗教論			20世紀アメリカで最も影響力のある哲学者ジョン・デューイは、敬虔なプロテスタントの風土の中で生まれ育ちました。彼の円熟した宗教論の著作である『共通の信仰』(1934年)の概要を、その背景を含めて簡単に紹介します。				12/7：松橋俊輔		
第11回	キリシタン資料と日本語			室町、安土・桃山時代、日本宣教のためにイエズス会宣教師がキリスト教を伝え、教義書のほか、文学・語学資料が「キリシタン資料」として残されましたが、これによってキリスト教文化の受容と摂取の状況を把握します。				12/14：今村かほる		
第12回	クリスマスの由来			ヨーロッパの異教の祭典が、現在のキリスト教の祭典にどのように変化していったか、について話す				12/21：スティーブン・マックウィニー		
第13回	英訳聖書の世界			英訳聖書の歴史について学ぶ				1/11：佐藤和博		
第14回	芥川龍之介『西方の人』			芥川龍之介『西方の人』をめぐってキリスト教文学について考える。				1/18：顧偉良		
第15回	弘前学院の歴史			皆さんの母校となる弘前学院は、キリスト教主義を建学理念に掲げ、130年を超える歴史を刻んできました。その歩みを追います。				1/25：坂井任		
評価方法及び評価基準	講義はオムニバスで担当し、評価は各担当の回数に比例して点数を比重化する。出席は毎回確認する。各担当者より小課題その他の方法によって、担当会分の評価を行う。									
課題等	授業内で課題やレポートが指示された場合は、期限内に提出すること。提出された課題・レポート等は適宜返却する。									
事前事後学修	学生便覧の「弘前学院の沿革と使命」の項を読んでおくこと。各教員の指示に従って復習し、各自講義の内容を問い直しておくこと。2回続きの授業の場合は教員の指示に従い次回の予習をす。									
教材教科書参考書	各担当者により、必要に応じてプリント等資料配布									
留意点	担当者・担当順は変更になることがある。									

科目名	聖書と文学		科目ナンバリング	L-GECHO-04. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	B52010		30時間				
区分	一般教育科目	選択	担当者名	楊 尚眞			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>現代と近代の日本のキリスト教文学作品と西洋のキリスト教文学作品を読みながら、各々の内容と意味を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. キリスト教文学作品と聖書の内容との関係性を学ぶ。</p> <p>2. 聖書の知識を深め、その知識を自己形成と生活に適用する。</p> <p>3. キリスト教文学作品作者の思想と価値観を習得する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	三浦綾子（みちありき）		三浦綾子の紹介、作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第2回	三浦綾子（この土の器にも）		作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第3回	三浦綾子（氷点）		作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第4回	三浦綾子（塩狩り峠）		作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第5回	三浦綾子（夕あり朝あり）		作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第6回	遠藤周作（沈黙）		遠藤周作の紹介、作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第7回	遠藤周作（女の一生）		作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第8回	太宰治（人間失格）		太宰治の紹介、作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第9回	ドストエフスキー（罪と罰）講義		ドストエフスキーの紹介、作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第10回	ドストエフスキー（カラマーゾフの兄弟）		作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第11回	トルストイ（復活）		トルストイの紹介、作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第12回	ジッド（狭き門）		ジッドの紹介、作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第13回	ゲーテ（ファウスト）		ゲーテの紹介、作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第14回	ジョン・バニアン（天路歷程）		ジョン・バニヤンの紹介、作品についての説明、作品内容の講義と討論					講義と課題解決型学修		
第15回	アウグスチヌス（告白）		作者の紹介、作品についての説明、作品内容の講義と討論							
評価方法及び評価基準	<p>1. 講義への参加態度（50%） 2. 感想レポート（1500字以上3つ）（50%）</p> <p>講義への参加態度の積極性（発言）を評価、感想レポートは講義に扱う文学作品に照らした自己省察の内容と論理性を評価する。</p>									
課題等	<p>課題の礼拝感想文の内容において要求され評価される4つの事柄をフィードバックとして講義で説明する。</p>									
事前事後学修	<p>教科書の内容を予め精読し、講義後においては理解したことをノートに整理する。予習と復習のために1日1時間を費やす</p>									
教材教科書参考書	<p>1. キリスト教文学と聖書（楊尚眞著） 2. 聖書</p>									
留意点	<p>講義と礼拝は必ず出席。講義内容に関する質問やディスカッションを奨励。オフィスアワー：水曜日10時 - 18時</p>									

科目名	哲学と倫理 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-00. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52000		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 現代的テーマである「生命」、「幸福」、「自由」、「格差」などの諸問題を通覧し、自分の生き方、社会のありかたに対して自覚的に反省する。また、授業の中で、自分の考えを口頭で発表する力、文章にする力を養うための練習も行う。なお、テーマによって映画作品も利用する予定。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>①広範な倫理問題に対して、自分なりの考えを表現できるようになること。②他人の意見を理解し、それに対して問題点を指摘する能力を身につけること。③難解な文章を読む力をつけること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			授業の目的、進め方						
第2回	「嘘も方便」は正しいか？			カントの倫理学説（義務論）について				課題解決型学修		
第3回	サバイバル・ロッターリー			生命倫理の問題、臓器移植は許されるか？				課題解決型学修		
第4回	「最大多数の最大幸福」			個人と社会のあり方を考える				課題解決型学修		
第5回	功利主義の基礎			功利主義とは？功利主義者の原典を読んでもみる				課題解決型学修		
第6回	幸福の計算			幸福とは何か、幸福へ至る道とは？				課題解決型学修		
第7回	人格概念			人格概念を検討する				課題解決型学修		
第8回	事実判断と価値判断			「である」と「べきである」の関係性について				課題解決型学修		
第9回	カントの定言命法			カントの倫理学説再説				課題解決型学修		
第10回	思いやりだけで道徳の原則ができるか？			道徳の原則とは何か？				課題解決型学修		
第11回	囚人のジレンマ			囚人にとって一番利益になる行為とは？				課題解決型学修		
第12回	施しは義務か？			貧者を援助しなければならないことの根拠				課題解決型学修		
第13回	正義は時代によって変わるか？			「格差」問題を考える				課題解決型学修		
第14回	科学は価値中立的か？			科学技術の光と闇				課題解決型学修		
第15回	まとめ			授業全体のまとめ						
評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題等	ワークシート“atelier”は翌週に返却。									
事前事後学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『現代倫理学入門』（加藤尚武、講談社学術文庫、本体1067円、ISBN978-4061592674）									
留意点	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									

科目名	哲学と倫理B		科目ナンバリング	L-GEHU0-01.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52001		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 フランスの啓蒙思想家ヴォルテールの手になる「哲学小説」、『カンディード』を読む。若者カンディードはライブニッツ流の「最善説」を当初信じていたが、世の不幸、災いを目の当たりにして次第に自身の考え方が変わっていく。あなたならどう考えるだろうか。人間の生き方を「哲学」する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	小説を読解する力、歴史的な事象に関して下調べする力、理解したことを口頭で発表する力、そして問題を発見する力を高めることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			授業の進め方						
第2回	1, 2, 3章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第3回	4, 5章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第4回	6, 7章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第5回	8, 9章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第6回	10, 11章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第7回	12, 13章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第8回	14, 15章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第9回	16, 17章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第10回	18, 19章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第11回	20, 21章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第12回	22, 23章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第13回	24, 25章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第14回	26, 27章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
第15回	28, 29, 30章			講読、問題提起				プレゼンテーション &ディスカッション		
評価方法 及び 評価 基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題 等	毎週、ワークシート“atelier”を授業時間内に完成させ、提出する。									
事前事後 学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材 教科書 参考書	『カンディード 他五篇』（ヴォルテール、植田祐次訳、岩波文庫、本体940円、ISBN4-00-325181-4）									
留意 点	履修者は分量のある文章を毎週読み込んで、予習してくること。									

科目名	法と社会A (日本国憲法を含む)		科目ナンバリング	L-GEHU0-02. SKN	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G52002		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
	教員免許	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>日本国憲法が保障する基本的人権を学ぶ。まず、人権に関する歴史や基礎理論を学び、そのうえで、包括的基本権及び自由権、社会権等の人権について概観する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	日本国憲法の人権諸条項について、それらの規定内容の理解を始め、それらを巡る現代的諸問題等をより深く理解する事を旨とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	人権総論①			基本的人権の概念						
第2回	人権総論②			基本的人権思想の歴史的展開①						
第3回	人権総論③			基本的人権思想の歴史的展開②						
第4回	人権総論④			基本的人権の享有主体						
第5回	人権総論⑤			基本的人権の私人間効力						
第6回	人権総論⑥			特別の法律関係における基本的人権						
第7回	人権総論⑦			基本的人権の限界と制約						
第8回	包括的基本権①			個人の尊重と幸福追求権						
第9回	包括的基本権②			幸福追求権の諸相						
第10回	包括的基本権③			法の下での平等						
第11回	包括的基本権④			家族生活と平等						
第12回	包括的基本権⑤			雇用関係と平等						
第13回	自由権①			思想及び両親の自由						
第14回	自由権②			信教の自由と政教分離						
第15回	総括			まとめと振り返り						
評価方法及び評価基準	試験（前期試験）のみ									
課題等	特になし									
事前事後学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと									
教材教科書参考書	特に指定しない									
留意点	憲法の条文をその場で参照できるよう、準備をしておくこと。									

科目名	法と社会B		科目ナンバリング	L-GEHU0-03. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G52003		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	大野 拓哉			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>法と社会Aに引き続いて、日本国憲法が保障する基本的人権を学ぶ。法と社会Aで学んだ基礎理論を前提にしつつ、各人権条項の内容を学ぶのに加えて、必要に応じて、裁判例などについても理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	各人権条項の規程内容の理解に加えて、現代的諸問題への対応についても、より広くより深い理解を形成する。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	自由権③		学問の自由と大学の自由							
第2回	自由権④		表現の自由①							
第3回	自由権⑤		表現の自由②							
第4回	自由権⑥		表現の自由③							
第5回	自由権⑦		経済的自由権の歴史的展開							
第6回	自由権⑧		財産権の保障							
第7回	自由権⑨		職業選択の自由と営業の自由							
第8回	自由権⑩		居住・移転・国籍離脱の自由							
第9回	社会権①		自由権と社会権							
第10回	社会権②		生存権①							
第11回	社会権③		生存権②							
第12回	社会権④		教育を受ける権利							
第13回	社会権⑤		労働基本権①							
第14回	社会権⑥		労働基本権②							
第15回	総括		まとめと振り返り							
評価 方法 及び 評価 基準	試験（後期試験）のみ									
課題 等	特になし									
事前事 後学修	特に事後学修に関して、指示された文献や条文の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	特に指定しない									
留意 点	憲法の条文をその場で参照できるよう、準備をしておくこと									

科目名	政治学A		科目ナンバリング	L-GEHU0-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52014		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 今日、社会全体がどちらかといえば政治に無関心な状況が蔓延しています。そこで、この講義のねらいは、政治と私たちの社会がどのような関係にあるのかを受講者に理解・意識してもらうことにあります。それゆえ、講義では制度を多く扱うよりも、それらに密接に関わる理論や傾向、あるいは考え方に力点をおきます。それゆえ、答えが出なくとも、疑問を持ち、考える習慣を身に付けてください。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	受講者には以下の3点の「答え」を相応に理解してもらえればと思う。 ・なぜデモクラシー（民主主義）は悪魔にもなりうるのか。 ・なぜ政治や権力が人間の社会に不可欠なのか。 ・江戸幕府までの政治組織と近代行政官僚制ではどこが異なるのか。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	本講義概要・展開方法・試験等について			さらに、出欠や感想文とレポートの違い等の説明も行う。						
第2回	政治とは何か			学生に今までの理解で「政治」について知っていること、思っていること、感じていること等を用紙に書いてもらう。これを回収して西東がコメントしていく。						
第3回	権力とは何か・権威とは何か			M. ウェーバーの支配（権力）の正当性を使い、私たちの国・地方・コミュニティ・世界に存在する権力と権威について解説する。						
第4回	弘前市議会議員3名による講義			弘前市議会の現状とこれから						
第5回	マス・メディアと政治			民主主義体制における政治家とマス・メディアには基本的に価値観の対立がある。						
第6回	民主主義			民主主義体制のメリットとデメリット。民主主義体制以外の独裁体制のデメリット。						
第7回	日本の集団主義文化と米国の個人主義文化と			集団主義文化や個人主義文化は慣習であるが、日本の学校の集団重視教育のように、制度に取り入れられている集団主義文化も存在する。私たちのこうした慣習は集団や組織にとってメリット・デメリットの双方が現れる。KYも良かれ悪しかれ集団主義文化である。具体例をあげながら、日米の文化について分析していく。						
第8回	元NHKアナウンサーによる講義			テーマは毎年変わっています。前週の授業でお知らせします。						
第9回	国際政治を理解するための基礎知識（1）			国際政治における権力・条約・国際連合の関係						
第10回	パレスチナ・イスラエル問題の歴史（1）			NHKのドキュメンタリー番組の鑑賞						
第11回	パレスチナ・イスラエル問題の歴史（2）			パレスチナ・イスラエル問題の歴史を見ていく。ユダヤ社会とアラブ社会の歴史を概説する。						
第12回	官僚制理論（1）			官僚制理論の基礎を考察していく。M. ウェーバーの推定した組織された社会の進行は今も続いている。こうした社会のメリット・デメリットを考えたい。						
第13回	官僚制理論（2）			行政官僚制による「天下り」問題と集団主義文化						
第14回	リーダーシップと水平的集団主義文化			戦後我が国社会は垂直的集団主義文化から水平的集団主義文化に変わりつつある。だが、この水平的集団主義文化のデメリットはリーダーを生み出しにくい文化とも言われる。個人・集団・組織の自律・自立の視点を加えてこの問題を考察する。						
第15回	制度と慣習			M. ウェーバーは、制度の理論に文化を絡ませて研究業績を残した。そうした彼の研究の一部をヒントにした分析を解説する。						
評価方法及び評価基準	毎回用紙に質問や意見を一つ以上書いてもらい、評価（前期で20%）します。減点評価はしないが、0点はあります。他の学生に参考になる質問や意見は、翌週の授業で答えたり、読んだりします。その他、レポート（30%）と試験（50%）。文章の構成と論理性を中心に評価します。									
課題等	完全な答えはないが、未来を切り開く自分や周囲の「ミッション」と活動とは何かについて、ああでもない、こうでもないと考え続けていくことができると思う。『地方自治の基礎』のいずれかの章を一つ読んで、800字以内にまとめて、さらに、その感想を800字以内でまとめる。									
事前事後学修	講義の前日は、新聞やネットニュースから政治記事の一つ以上読んでください。読んだ記事について、授業で突然聞かなくても構いません。講義終了日は、レジュメをさらっと読み見返し、配布した新聞記事をすべて丁寧に読んでください。									
教材教科書参考書	橋爪大三郎著『政治の哲学』ちくま新書、880円。レポート課題図書兼教科書：藤井浩司・中村祐司編著『地方自治の基礎』一芸社、2400円＋税。									
留意点	講義中や講義後の質問・感想に遠慮は必要ありません。就職活動など、欠席が事前にわかる場合は、西東に相談してください。相談内容によっては、配慮します。									

科目名	政治学B		科目ナンバリング	L-GEHU0-05.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52015		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	西東 克介			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 政治学Bは、政治学Aを基礎編とすれば応用編とも言える。民主主義体制の国では、日本国憲法第12条に示されているように、国民の「不断的努力によって」自由及び権利を保持するのである。怠けては保持されないことがあるかもしれない。どの国にも差別の問題が存在するが、その改善には長い長い年月がかかっている。我が国の平和も日本人やアジア人の多くの命が奪われた結果の後の努力により維持されているものである。私たちが努力していく方向を探るために、前期で学んだ基礎的知識を下に、さらに具体的に考察できる知識を学んでいく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・完全な答えはないが、未来を切り開く自分や周囲の「ミッション」と活動とは何かを考えていく。 ・受講者には、この「答え」をああでもない、こうでもない行動し、考え続けていく習慣を身に付けてほしい。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	本講義・展開方法・試験等について		さらに、出欠、感想文とレポートの違いについての確認。							
第2回	黒人差別の歴史的展開		米国黒人差別の歴史を植民地時代から19-20世紀までの概説する。							
第3回	公民権運動の動画鑑賞（1）		1950年代から1960年代までの公民権運動を撮影したものを再編集した動画の鑑賞。							
第4回	グループワーク「公民権運動について」		5人か6人ずつにわかれて話し合う。							
第5回	M. ウェーバーの政治家としての資質		M. ウェーバーの述べた政治家の資質は、政治の独特の問題への対応を除けば、あらゆる組織のリーダーにとって不可欠なものである。受講者にとって多少難解な点もあるが、リーダーはリーダーの周囲との人間関係において成長し、周囲の人間もこれにより成長していく。良き方向に進むのか、悪い方向に進むのか。このことをリーダーと周囲の人間は、常に配慮する必要がある。							
第6回	議院内閣制・大統領制とリーダーシップ		議院内閣制と大統領制の分析とリーダーシップの関係について考察する。							
第7回	圧力団体・公益法人・NPO		圧力団体・公益法人・NPOを概説し、メリット・デメリットを分析する。							
第8回	文民統制・自衛権・集団安全保障		民主主義国家における文民統制の理解、日本国憲法第9条と個別的自衛権・集団的自衛権、双方の自衛権と国連の集団安全保障概念を理解する。							
第9回	白取克之氏による講義		白取氏が農業を始めるまでと農福連携について							
第10回	NGOとNPOのミッション		(NGOを含む) NPOの企業や行政とは異なる特徴は何か、また、そのミッションとは何か。これらを中心に考察する。							
第11回	NGOとNPOの機能と構造パターン		(NGOを含む) NPOの機能と構造パターンから、そのメリット・デメリットを考察していく。							
第12回	行政学史（1）		現代行政学は米国で生まれた。その発生の原因と新しい学問に影響を与えた学問の基本的知識の理解。							
第13回	行政学史（2）		現代行政学のパラダイムは「政治と行政の分離」である。だが、このパラダイムは批判されるが、行政学はこれにより徐々に発展していく。正統派行政学についての理解を求める。							
第14回	行政学史（3）		バーナードとサイモンが行政学に与えた基本的な学説の理解。							
第15回	欧米と我が国のセックスワーカーと社会の課題		セックスワーカーに対する差別と偏見の根源的な課題について、各国の制度から学生に考えてもらう。							
評価方法及び評価基準	毎回用紙に授業の質問と意見を一つ以上書いてもらい、これを評価（20%）する。前期のレポート（前期とは異なる章を選ぶ）か、白取氏の講義を聞いての感想文（30%）と試験1回（50%）文章の構成と論理性を中心に評価する。									
課題等	受講者である学生自身が、様々な講義の中でこれが私の政治課題であると言えるテーマを見つけてほしい。政治の課題は世の中のあらゆる問題のほとんどに関わっているから。									
事前事後学修	講義の前日は、新聞やネットニュースから政治記事の一つ以上読んでください。読んだ記事について、授業で突然聞かなくても構いません。講義終了日は、レジュメをさらっと読み見返し、配布した新聞記事をすべて丁寧に読んでください。									
教材教科書参考書	橋爪大三郎著『政治の哲学』ちくま新書、880円。レポート課題図書兼教科書：藤井浩司・中村祐司編著『地方自治の基礎』一藝社、2400円＋税。									
留意点	就職活動など、欠席が事前に分かる場合は、西東に相談してください。相談内容によっては、配慮します。									

科目名	経済学A		科目ナンバリング	L-GEHU0-06.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G52016		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 近代以降のヨーロッパ経済の歴史と著名な経済学者(アダム・スミス、リカード、マルクス、マーシャル、ケインズ)の業績を学びながら、経済学の基本的な考え方を身に付けます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	経済学の歴史を学び、経済学の基本的な考え方を身に付けることを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	重商主義の時代			アダム・スミスの時代と生涯について学びます。						
第3回	市場メカニズム			アダム・スミスの価格理論と成長理論について学びます。						
第4回	小さな政府			アダム・スミスの経済政策と「小さな政府」について学びます						
第5回	産業革命の時代			リカードの時代と生涯について学びます。						
第6回	国際貿易の原理			リカードの比較生産費説について学びます。						
第7回	階級闘争の時代			マルクスの時代と生涯について学びます。						
第8回	資本主義の構造			マルクスの資本主義の構造的分析について学びます。						
第9回	資本主義の歴史			マルクスの資本主義の歴史的分析について学びます。						
第10回	ヴィクトリア時代			マーシャルの時代と生涯について学びます。						
第11回	市場経済の理論			マーシャルの需給均衡理論について学びます。						
第12回	大恐慌の時代			ケインズの時代と生涯について学びます。						
第13回	失業の原因			ケインズの雇用理論と貨幣理論について学びます。						
第14回	福祉国家の形成			ケインズの経済政策と福祉国家について学びます。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、経済学の歴史について考えます。						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 平常評価 (50%) : 毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価 (50%) : 期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題 等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前 事後 学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返ししながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材 教科書 参考書	(参考書) 八木紀一郎『経済思想』(第2版) 日本経済新聞出版社、2011年、ISBN: 9784532112431									
留意 点										

科目名	経済学B		科目ナンバリング	L-GEHU0-07. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G52017		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	福田 進治			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 現代の資本主義経済の構造と分析方法、マクロ経済政策の必要性とその効果を学びながら、今日の日本経済をめぐる諸問題について考えます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	現代経済の基本的メカニズムを学び、日本経済の現状と課題を理解することを目指します。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	序 論			授業の目的、概要、方法について説明します。						
第2回	日本経済の動き			戦後の日本経済の動きと経済政策の考え方について学びます。						
第3回	マクロ経済分析			現代経済の構造と理論的把握の方法について学びます。						
第4回	失業の原因			失業の定義、概念、原因について学びます。						
第5回	総生産の決定			総生産（GDP）の定義、総生産の決定の原理について学びます。						
第6回	財政政策の効果			政府の役割と財政政策の効果について学びます。						
第7回	財政赤字と失業			財政政策の運用と限界について学びます。						
第8回	貿易の効果			貿易の国内経済に対する影響と関税の問題について学びます。						
第9回	為替レート			為替レートの決定と経済に対する影響について学びます。						
第10回	投資の決定			金融市場の役割と投資の決定の原理について学びます。						
第11回	金融市場の役割			利子率の決定と資産選択の原理について学びます。						
第12回	金融政策の効果			中央銀行の役割と金融政策の効果について学びます。						
第13回	物価の変動			物価変動の原因と影響、金融政策の限界について学びます。						
第14回	経済成長の戦略			経済成長の戦略を学び、今後の日本経済を展望します。						
第15回	まとめ			授業の内容を振り返り、日本経済について考えます。						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>1) 平常評価（50%）：毎回の授業に際して、コメント付き出席カードを提出してもらいます。各回の授業の出席状況、受講態度と学習意欲、授業の理解度を評価します。 2) 期末評価（50%）：期末試験を実施します。授業全体の理解度、現代社会に関する問題意識、自分の考えを文章によって論理的に説明する能力を評価します。</p>									
課題 等	毎回の授業のコメントに対して、必要に応じて回答します。期末試験の答案については、希望者に返却します。									
事前 事後 学修	日頃から、テレビ・インターネット等で、政治・経済・社会のニュースを見る習慣をつけて下さい。授業の前に、参考書等を読んで下さい。授業の後に、ノートを読み返しながら、授業内容を振り返って下さい。1日あたり30分を目安とします。									
教材 教科書 参考書	(参考書) 塚崎公義『一番わかりやすい日本経済入門』河出書房新社、2018年、ISBN: 9784309248417									
留意 点										

科目名	心と身体A		科目ナンバリング	L-GEHU0-08. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52006		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 人間行動の基礎過程である心の活動を探索する。心理学研究史を概観し、その意義、方法論を探り、看護活動や福祉活動など現場領域を視野に入れ、脳と心の関係、感覚・知覚、欲求・行動の成り立ちを探る。学習・記憶、言語・思考、情動・動機づけ、発達・学習、パーソナリティ、対人関係・社会行動など、実験論文を通して、人間行動を総合的に考える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 基本概念と語句を理解すること 2. 実験の方法と結果を予測する力をつけること 3. 心の活動について自分の答えを見つけること</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	心理学の歴史と方法		心理学誕生の経緯、その方法の由来を知り、学問の成り立ちを考える							
第2回	心の活動の定義		心の活動を5種類に分け、それぞれ具体例を挙げ、心の活動を定義する							
第3回	感覚・知覚の世界：逆さに見える世界		逆さに見えるめがねをかけ、この実験の由来と意味を考える					ディベート		
第4回	感覚・知覚の世界：初めて見る世界		一定の生活歴を経てから初めてこの世界を見た人達の実例を見る					ディベート		
第5回	記憶のメカニズム：記憶術名人の苦悩		記憶機能に関わる実験例を見、「記憶の名人」の苦悩について考える					ディベート		
第6回	言語の成立と機能：言語機能障害		言葉をうまく話せない子供達に対する形成実験例を挙げる					ディベート		
第7回	学習意欲の崩壊：ひきこもり		勇気、意欲、希望：学習意欲が失われる実験例について考える					ディベート		
第8回	学習意欲の芽生え：挑戦する人達		勇気、意欲、希望：学習意欲が成り立つ条件について考える					ディベート		
第9回	情動、感性、動機：気持ちを変える		気持ちが変化したり、芽生えたり、それを示す実験例を挙げる					ディベート		
第10回	発達、学習：未知の世界に喜ぶこども		発達、学習、操作：働きかけると機能が変わる。実験の具体例					ディベート		
第11回	性格・人格・行動：個性に悩む人達		性格・人格・行動：性格検査、適性検査を実施し、自己を考える					ディベート		
第12回	対人関係と社会：お金持ちの最適戦略		お金持ちになる戦略を巡る実験を見、人との関わりについて考える					ディベート		
第13回	脳と心の関係性：大脳には心理機能の地図		大脳の心理機能地図、リハビリから脳と心の関係性について考える					ディベート		
第14回	脳と心の関係性：脳損傷と機能形成		脳損傷者の機能形成臨床例から脳と心の関係性について考える					ディベート		
第15回	総括		心の活動について受講生一人一人が絵を描く							
評価方法及び評価基準	<p>講義で毎回小レポートを課する(15回×3点=45点)。翌週提出する大きなレポート3回(3回×10点=30点)。最終16回目試験(25点)。 レポート、試験はテーマに応じて論理的に構成されているか、評価する。</p>									
課題等	<p>毎回行う小レポートは講義時に解説。大レポートは提出後に解説する。</p>									
事前事後学修	<p>毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。</p>									
教材教科書参考書	<p>なし。プリント配布。</p>									
留意点	<p>心を込めてレポートを書くこと。 連絡先：sasaki@hirogaku-u.ac.jp オフィスアワー：(木)14：20～15：50</p>									

科目名	心と身体B		科目ナンバリング	L-GEHU0-09. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52007		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 心の活動という現象を脳という物質が支えている。近年、工学技術の進展により脳内機構を探索することが可能になり、心と脳の関連性を捉えようとする研究が飛躍的に増大している。しかし両者の関連性が十分に解明されたとは言えない。本稿では、見る活動と脳の関連性について残された課題を探索。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 実験の方法や結果を予測する力をつけること 2. 見る活動と脳の活動の関係性を捉えること</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	脳の構造と働き：医学/生理学領域			医学的観点から脳の構造と働きを学ぶ						
第2回	脳損傷：大脳認知地図の状況			脳損傷者の大脳認知地図の臨床例から、脳と心の関係性を探る						
第3回	脳機能と動物実験			人に対してはできない脳を操作する実験が動物で行われている						
第4回	脳に損傷を受けた人達			一定の生活歴を経てから脳に損傷を受けた人たちの状況を紹介する						
第5回	見る活動：静止網膜像の実験			見る活動を支える生理学的基礎：静止網膜像の実験					ディベート	
第6回	見る活動：視覚と触覚の実験			見る活動と触る活動に乖離が生じると：視覚と触覚の実験					ディベート	
第7回	脳と心の関係：両者間の優位性			これまでを総括し、脳と心の関係性/優位性について考える					ディベート	
第8回	脳に損傷を受けた人達の機能形成			脳が壊れても機能は形成されるRewinの臨床報告。Sadatoの実験報告					ディベート	
第9回	脳と心の関係：両者間の優位性			改めて、脳と心の関係性/優位性について考える					ディベート	
第10回	子供における見る活動の障害と形成			見る活動：方向弁別と形の知覚実験					ディベート	
第11回	脳損傷者における見る活動の障害と形成			脳損傷実験：Yagiの実験報告					ディベート	
第12回	見る活動の障害と形成			これまでの事例から見る活動の障害と形成について総合的に考える					ディベート	
第13回	行動障害状況の打開			行動障害状況に応じた機能形成の原理を探る						
第14回	脳と心の関係性の結論			脳と心の関係性/優位性について総合的に考える						
第15回	総括			心の活動について受講生一人一人が絵を描く						
評価方法及び評価基準	<p>講義で毎回小レポートを課する(15回×3点=45点)。翌週提出する大きなレポート3回(3回×10点=30点)。最終16回目試験(25点)。レポート、試験はテーマに応じて論理的に構成されているか、評価する。</p>									
課題等	<p>毎回行う小レポートは講義時に解説。大レポートは提出後に解説する。</p>									
事前事後学修	<p>毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。</p>									
教材教科書参考書	<p>なし。プリント配布。</p>									
留意点	<p>心を込めてレポートを書くこと。 連絡先：sasaki@hirogaiku-u.ac.jp オフィスアワー：(木)14：20～15：50</p>									

科目名	教育と人間 A (生涯学習)		科目ナンバリング	L-GEHU0-10. SSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52018		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	松橋 俊輔			授業 形態	講義	単独	
	社会教育士・学芸員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>生涯学習論と生涯発達論、また、そうした視点からの学校教育改革の動向について幅広く基礎的な知識を講義し、それに基づいて自らの教育経験を振り返り相対化しながら、人間にとっての教育のありようについて考え議論する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 生涯学習論の観点から学校教育をとらえ直し、学校教育を改善しようとする動きについて基礎的な知識を得ることを通して、社会における教育のあるべき姿について考えるための観点を手に入れ、自分なりの考えを持つ。</p> <p>2) 生涯発達心理学の基礎的な知識を得ることを通して、人間にとっての学習のありようについて考えるための包括的な観点到に触れ、自分なりの考えを持つ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			・ 本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明						
第2回	ヒトと教育			・ ヒトと教育 ・ 「教育」という試みの難しさ						
第3回	近代教育という問題(1) 西洋の場合			・ 「学校」の成立 ・ 「近代教育」の基本性格						
第4回	近代教育という問題(2) 日本の場合			・ 戦前における国家と教育 ・ 戦後における国家と教育						
第5回	生涯学習の理念			・ 生涯学習の理念とその展開 ・ 日本における生涯学習論の受容と浸透						
第6回	生涯学習社会への学校改革(1) 「学力」の問い直し			・ 「詰め込み」から「生きる力」へ？ ・ 「生きる力」をどう育てるのか						
第7回	生涯学習社会への学校改革(2) 「キャリア」と学校教育			・ 「キャリア」の概念と「キャリア教育」の実践 ・ 学校教育と職業・人生						
第8回	現代日本の教育問題			・ 増加する不登校、引きこもりの問題 ・ 何ができるか、何を变えるべきなのか						
第9回	生涯発達の理論			・ 生涯発達理論の問題意識 ・ 発達段階論の紹介						
第10回	乳児期・幼児期の発達と教育			・ 乳児期・幼児期の発達について ・ 子供を取り巻く環境の変化						
第11回	児童期の発達と教育			・ 児童期の発達について ・ 全ての子どもの学びを保証する学校をめざして						
第12回	思春期・青年期の発達と教育			・ 思春期・青年期の発達について ・ アイデンティティの問題を考える						
第13回	成人初期の発達と学習			・ 職業選択とキャリア発達 ・ 家庭生活における発達 ・ 大人の学びとは						
第14回	中年期・老年期の発達と学習			・ 人生の折り返しの危機 ・ ケアの担い手としての発達 ・ 人生を振り返る ・ 死をめぐる問題						
第15回	まとめ			・ 授業全体の総括						
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業への取り組み 50% ・ レポート 50% 									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポート：授業で扱った内容から一つを選び、学んだことおよび考えたことをまとめる。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前に、事前に配布された資料を読むこと。 ・ 授業後には、講義内容を振り返り、提示された問いに対する自分なりの考えをまとめておくこと。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書は指定せず、配付資料を用いて授業を進める。 ・ 参考図書は授業中に適宜提示する。 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし 									

科目名	教育と人間B (社会教育)		科目ナンバリング	L-GEHU0-11. SSC	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52019		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名				授業 形態	講義	単独	
	社会教育士・学芸員	必修								
授業の概要等	〔授業の主旨〕 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	歴史と社会 A		科目ナンバリング	L-GEHU0-12. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52010		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 フランスと日本の家族政策の変遷をたどりながら。そこにある違いを見出し、日本の少子化問題の解決策を見出そうとする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>はじめに、フランスの家族の変遷を歴史的に観ていく。そして、フランスの家族政策が人口問題にどのようにかかわっているかを学ぶ。そして、社会の変化に対応しようとして、四苦八苦する姿を見出し、それがやがて家族政策に反映し徐々に人口減少に歯止めがかかり、やがては人口増加に転換するのを観ていく。そして、あらゆる政策のすえに、奇跡ともいえる人口減少に歯止めがかかった様子を検証する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備 考		
第1回	マイレッド・コリガン・マグワイア			ベティ・ウィリアムズと平和団体を設立。再教育の重要性を強調						
第2回	アムネ스티・インターナショナル			囚人の救済支援、人権擁護、死刑の廃止、難民救済						
第3回	メナヘム・ベギン			イスラエル首相、サダト大統領との和平合意						
第4回	アンワル・サダト			エジプト革命、アラブ連合共和国、イスラエルとの合意						
第5回	マザー・テレサ			終生誓願、カルカッタ聖マリア学院、神の愛の宣教者信徒会						
第6回	アドルフォ・ペレス・エスキベル			平和と正義のための奉仕、パーチェム・イン・テリス賞						
第7回	アルバ・ライマル・ミュダール			スウェーデンの福祉国家論						
第8回	アルフォンソ・ガルシア・ロブレス			ジュネーブ軍縮会議、カリブの非核地帯、トラテロルコ条約						
第9回	レフ・ワレサ			グダニスク造船所、連帯、ポーランド大統領						
第10回	デズモンド・ムビロ・ツツ			アパルトヘイト、真実平和委員会、ケープタウン大主教						
第11回	核戦争防止国際医師会議			マサチューセッツ州サマービル、フクシマの被爆許容量修正抗議						
第12回	エリ・ヴィーゼル			強制収容所、小説『夜』、						
第13回	オスカル・アリアス・サンチェス			コスタリカ、国民解放党、大統領						
第14回	国際連合平和維持活動			PK0, ベレー帽、停戦監視団、平和維持軍、選挙監視活動						
第15回	リゴベルタ・メンチュウ			先住民族の権利宣言、「万人の健康社」の設立、						
評価方法及び評価基準	<p>授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているか評価する。</p>									
課題等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前事後学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材教科書参考書	『文明の衝突』サミュエル・ハンチントン、集英社文庫、下巻 ISBN:978-4-08-760738-3									
留意点	事前の学習が大切。特に、毎回テーマごとにレポートを用意すること。それをもとにグループごとにディベートを行う。									

科目名	歴史と社会B		科目ナンバリング	L-GEHU0-13.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52011		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>フランスの出生率の高さの原因を探ってきた経緯から、今度は日本の出生率の低さの原因について探っていく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>日本の少子化は1992年から始まったとされる。その後、高齢化と対になる形で使われるようになった。その当時の国民生活白書には、少子化問題の多くがすでに詩的されていた。少子化対策も記されていた。問題は誰もそれを重要なことと受け止めていなかったことである。96年では出生率が1.43まで落ちていた、にもかかわらず放置されていたのである。その原因を徹底して探る。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ネルソン・マンデラ			アパルトヘイト、アフリカ民族会議、国民統合政府大統領						
第2回	フレデリック・デクラーク			国民党、民主改革路線、マンデラ釈放、アパルトヘイト法廃止						
第3回	ヤセル・アラファート			ファタハ、PLO、パレスチナ自治政府、						
第4回	シモン・ペレス			新党ラフィ、労働党、PLOとの和解						
第5回	イツハク・ラビン			パルマツハ副司令官、参謀総長、パレスチナ暫定自治宣言						
第6回	バグウォッシュ会議			科学と国際問題に関する会議、ラッセル・アインシュタイン宣言						
第7回	ジョゼフ・ロートブラット			マンハッタン計画、バグウォッシュ会議、						
第8回	カルロス・ベロ			司教叙階、東ティモール人包括対話						
第9回	ジョゼ・ラモス＝ホルタ			東ティモール民主協会、自決権行使、独立						
第10回	地雷禁止国際キャンペーン			対人地雷の製造と使用禁止のためのNGO、オタワ条約						
第11回	ジョディ・ウィリアムズ			エルサルバドル内戦、ホンデュラス教育計画、地雷廃絶						
第12回	ジョン・ヒューム			クレジットユニオン運動、ベルファスト合意						
第13回	デヴィッド・トリンブル			北アイルランド、社会民主労働党						
第14回	国境なき医師団			ナイジェリア内戦、ベトナム船、マラリア撲滅						
第15回	金大中			新民党、拉致、民主救国宣言、光州事件、国家情報院廃止						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40%</p> <p>毎回、授業で発表者を決め、今回は5人ずつのグループを作る。その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているか評価する。</p>									
課題 等	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
事前事 後学修	各回の主題は事前に調べておくこと。授業後はノートを提出すること。									
教材 教科書 参考書	『文明の衝突』サミュエル・ハンチントン、集英社文庫、下巻 ISBN:978-4-08-760738-3									
留意 点	必ず予習をしておくこと。発表を重視するので何回発表してもよい。またそれをレポート提出すれば、まだよい。									

科目名	現代の社会と文化A		科目ナンバリング	L-GEHU0-14. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G52012		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	講義	単独
	日本語教員	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 20世紀以降の先進国の文化や生活様式に多大な影響を与え続けている、メディアの変化および消費社会化について学ぶ。それぞれ、メディア技術の発展がコミュニケーションや社会関係にもたらした影響、消費社会化がマクロ社会や人間関係、生き方にもたらした変化について学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの概念、歴史を知ることにより、私たちのコミュニケーションのあり方を相対化してみられるようになる ・消費社会に関する問題を理解することによって、私たちが日常的に行っている消費行動の社会的な意味を理解できるようになる ・情報、消費に媒介されて成立している現代文化のありようを長い時間軸の中で理解できるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	後期近代社会における社会変動			情報社会化、消費社会化、リスク社会化						
第2回	メディアとは何か			メディアの概念						
第3回	メディアの歴史（1）			メディアの発展とコミュニケーションの変化						
第4回	メディアの歴史（2）			インターネット上のコミュニケーション						
第5回	メディアとリアリティ			メディアと現実の関係						
第6回	マス・メディアの効果（1）			弾丸理論、限定効果説、強力効果説						
第7回	マス・メディアの効果（2）			マス・メディアの送り手と受け手						
第8回	消費社会の歴史と特徴（1）			消費社会の問題						
第9回	消費社会の歴史と特徴（2）			日本の消費社会、欧米の消費社会						
第10回	消費社会と文化の問題（1）			欲求の操作と競争的消費						
第11回	消費社会と文化の問題（2）			記号の消費と他者性の問題						
第12回	経済成長と幸福			途上国の幸福/先進国の幸福						
第13回	消費社会と環境問題			資源問題と自然環境問題、大量生産と大量消費						
第14回	南北問題と消費社会			南北問題における生産者と消費者、フェアトレード						
第15回	脱物質主義化			欲求階層論、脱物質主義化、倫理的消費						
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う試験によって評価を行います。基本的な概念の理解、およびそれら基本的概念を使用して現実の社会を応用的に考えることができるかどうかという点を試す問題を出します。論述問題に関しては、内容のいかんにかかわらず、論理性を重視して評価します。</p>									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	授業中に紹介する関連文献を読んで、理解を深めてください。過当たり3時間程度。									
教材教科書参考書	教科書は使用しません。参考図書は授業中に指示します。									
留意点										

科目名	現代の社会と文化B		科目ナンバリング	L-GEHU0-15. SS	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G52013		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会学の基礎的な知識を学ぶことで、これまで気づかなかった人間関係・社会現象のメカニズムや意味、社会や人間に対するこれまでとは異なった見方を学ぶ。扱うテーマは、自己、ジェンダー、セクシュアリティ、家族、階級・階層、健康・医療など。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな水準の社会現象を、よりクリアに理解できるようになる ・さまざまな水準の社会現象を、より深く理解できるようになる ・社会学の知識を用いて、現実の人間関係や社会現象を理解できるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	社会学とは何か（1）		人文社会科学と社会学							
第2回	社会学とは何か（2）		社会学のはじまり（デュルケム、ウェーバー、ジンメル）							
第3回	自己の社会学（1）		自己とは何か							
第4回	自己の社会学（2）		社会的に定義される自己							
第5回	自己の社会学（3）		自己と他者のコミュニケーション							
第6回	ジェンダーとセクシュアリティ（1）		ジェンダーの概念と特徴							
第7回	ジェンダーとセクシュアリティ（2）		ジェンダーと社会							
第8回	ジェンダーとセクシュアリティ（3）		セクシュアリティ、セクシュアル・マイノリティ							
第9回	家族の社会学（1）		家族とは何か							
第10回	家族の社会学（2）		結婚と家族							
第11回	家族の社会学（3）		戦後社会における家族の変化							
第12回	階級・階層の社会学（1）		階級・階層の概念、社会移動							
第13回	階級・階層の社会学（2）		戦後社会における階級・階層の変動							
第14回	健康・医療の社会学（1）		健康の概念、医療化							
第15回	健康・医療の社会学（2）		薬害問題							
評価方法及び評価基準	<p>学期末に行う試験によって評価を行います。基本的な概念の理解、およびそれら基本的概念を使用して現実の社会を応用的に考えることができるかどうかという点を試す問題を出します。論述問題に関しては、内容のいかんにかかわらず、論理性を重視して評価します。</p>									
課題等	適宜指示します。									
事前事後学修	授業中に紹介する関連文献を読んで、理解を深めてください。週当たり3時間程度。									
教材教科書参考書	教科書：宇都宮京子・西沢晃彦編『よくわかる社会学 [第3版]』ミネルヴァ書房（ISBN：978-4-623-08971-0）									
留意点										

科目名	情報の科学 A		科目ナンバリング		L-GENAO-00. HKN	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	前期	
			科目 コード	1限目								G53000
				3限目								G53001
				4限目								G53002
区分	一般教育科目	必修	担当者名	坂井 任				授業 形態	講義	単独		
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 パソコンの基本的な操作法と代表的なアプリケーションであるワープロ・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの使用法を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>											
到達 目標	パソコン初心者でも、基本文書等の作成ができるようになることを目標とする。レポートや資料の作成に困らない技能を身につける。											
授 業 計 画												
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修							備 考		
第1回	パソコンの起動とWindowsの基礎		Windowsの起動と終了 アプリケーションソフトの基本操作									
第2回	インターネット		インターネットの利用							情報倫理を含む		
第3回	Word 1		Wordの起動と終了 文字入力									
第4回	Word 2		漢字変換 文章の入力・訂正									
第5回	Word 3		ファイルの保存と読み込み・ページ設定と印刷 文書の作成・文字の書式									
第6回	Word 4		表・画像と図形									
第7回	課題第1回		Word課題									
第8回	情報検索／課題第2回		インターネットで情報検索							インターネットによる 学術情報の利用		
第9回	電子メール／課題第3回		電子メール・添付ファイル							情報セキュリ ティ・情報倫理を 含む		
第10回	Excel 1		Excelの起動と終了 データ入力の基礎									
第11回	Excel 2		ワークシート編集 関数を使った計算式・相対参照と絶対参照									
第12回	Excel 3		罫線・グラフ・条件判定									
第13回	課題第4回		Excel課題									
第14回	PowerPoint 1		PowerPointの起動・プレゼンテーションの作成									
第15回	PowerPoint 2		アニメーション効果・スライドショー									
評価 方法 及び 評価 基準	<p>課題提出55%、平常点(授業への取り組み)45% 課題を通じて、一定レベルの運用能力が身に付いたかを評価する。 試験なし。 単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。</p>											
課題 等	<p>授業内で課題を出す。その場でフィードバックするので、できていない場合は再提出する。 ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず提出すること。</p>											
事前事 後学修	<p>教科書の問題の内、授業でできなかったものについては、自学しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。</p>											
教材 教科書 参考書	『30時間でマスターOffice 2016』実教出版(本体1000円+税) ※対応年度に注意 ISBN 9784407340181											
留意 点	<p>受講する時間によって科目コードが違うので、間違えないこと。 上記教科書を購入すること。 USBメモリーを用意すること。</p>											

科目名	情報の科学B		科目ナンバリング		L-GENA0-01. SS	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目 コード	3限目 4限目							
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井 任				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 ワード・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの効果的な使用法を、問題練習を通じて学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>										
到達目標	文書や資料の実践的な作成能力を身につける。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考		
第1回	ガイダンス+コンピュータの基本操作		ガイダンス コンピュータの基本操作								
第2回	Word 1		文書の作成と管理								
第3回	Word 2		一般的なビジネス文書の作成								
第4回	Word 3		シンプルなレポートや報告書の作成								
第5回	Word 4		表、画像、図形を使った文書の作成								
第6回	課題第1回		Wordの課題								
第7回	PowerPoint 1		プレゼンテーションの企画／わかりやすいストーリー構成								
第8回	PowerPoint 2		センスアップするレイアウトデザイン								
第9回	PowerPoint 3		イメージを伝えるイラスト・写真活用								
第10回	課題第3回		PowerPointの課題								
第11回	Excel 1		表作成の基本操作								
第12回	Excel 2		表を見やすく使いやすくする編集操作								
第13回	Excel 3		数式・関数を活用した集計表の作成								
第14回	Excel 4		グラフの基本								
第15回	課題第2回		Excelの課題								
評価方法及び評価基準	課題提出55%、平常点(授業への取り組み)45% 課題を通じて、一定レベルの運用能力が身に付いたかを評価する。 試験なし。 単位を修得するには、課題をすべて提出する必要がある。										
課題等	授業内で課題を出す。その場でフィードバックするので、できていない場合は再提出する。 ※ 欠席した場合も掲示に従って必ず提出すること。										
事前事後学習	教科書の問題の内、授業でできなかったものについては、自学しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。										
教材教科書参考書	『情報利活用基本演習Office2016対応』日経BP社(本体1600円+税) ※対応年度に注意 ISBN 9784822297985										
留意点	定員：各コマ40名(履修者の調整をすることがあるので掲示に注意) 受講する時間によって科目コードが違うので、間違えないこと。 USBメモリーを用意すること。										

科目名	環境の科学		科目ナンバリング	L-GENAO-02. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53006		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを考察する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	自然災害の成因を理解し、自然地理を防災に活用できるようにする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	日本でおこる自然災害①			人口の集中する地域での自然災害				講義		
第2回	日本でおこる自然災害②			山間部で生じる自然災害				講義		
第3回	沖積平野における自然災害①			沖積平野の地形発達について				講義		
第4回	沖積平野における自然災害②			沖積平野の地形をよむ（空中写真判読）				講義		
第5回	沖積平野における自然災害③			津波・高波による自然災害のしくみ				講義		
第6回	沖積平野における自然災害④			河川氾濫による自然災害のしくみ				講義		
第7回	沖積平野における防災・減災			各地域における防災と減災のとりくみについて				講義		
第8回	火山のくに日本①			火山の定義				講義		
第9回	火山のくに日本②			火山地形とその形成過程				講義		
第10回	火山災害①			マグマと溶岩流について				講義		
第11回	火山災害②			山体崩壊による大規模災害				講義		
第12回	火山災害③			降下火山灰がもたらす災害				講義		
第13回	火山災害④			ポンペイの噴火から学ぶ噴火様式				講義		
第14回	火山からの恩恵			火山が人間にもたらす恵み				講義		
第15回	火山の周辺地域における防災・減災			火山災害の軽減や防止のためのとりくみについて				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験，小レポート									
課題 等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習として、シラバスの講義内容を確認して、図書などで調べて授業に参加し、事後学習は、各講義の終わりに、次回の授業のキーワードを発表するので、授業内容を復習した上で調べておくこと。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を、毎回持参すること。教科書は特に指定せず、授業時に資料を配布する。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄，橙，緑）程度、用意すること。									
留意 点										

科目名	生命の科学 A		科目ナンバリング	L-GENAO-03. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53010		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	田中 真実			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 生命の誕生からヒトの成長過程を学習し、更に、最先端生命科学を習得する。DVDおよび解剖生理学のアニメーションを視聴し理解を深める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>生命の誕生から生体の形態や機能について学ぶ。 最先端生命科学について学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	生体のしくみ I			ガイダンス、細胞と組織の概要						
第2回	最先端生命科学 I			iPS細胞の概要、「爆笑問題の山中教授とめぐる京都大学iPS細胞研究所」						
第3回	最先端生命科学 II			iPS細胞を用いた研究、「夢の扉 iPS細胞の未来」、ミニ肝臓						
第4回	生体のしくみ II			脳と神経						
第5回	生体のしくみ III			骨と筋肉						
第6回	生体のしくみ IV			消化器						
第7回	生体のしくみ V			呼吸器						
第8回	生体のしくみ VI			循環器①						
第9回	生体のしくみ VII			循環器②						
第10回	生体のしくみ VIII			感覚器①						
第11回	生体のしくみ IX			感覚器②						
第12回	生体のしくみ X			泌尿器						
第13回	生体のしくみ XI			内分泌						
第14回	生体のしくみ XII			血液と免疫						
第15回	まとめ			総括およびレポート課題提出						
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席につき、課題レポートによる評価(100%)。60%(60点)以上を合格とします。到達目標をどの程度達成されているのかをみる。									
課題 等	特になし。									
事前事 後学修	配布されたプリントを復習しておくこと。									
教材 教科書 参考書	プリントとスライドを併用する。参考書：「なぜ？」からはじめる解剖生理学、松村 護児（ナツメ社）、ISBNコード 978-4-8163-6294-1、これだけ！iPS細胞、夏緑（秀和システム）、ISBNコード 978-4-7980-4249-7									
留意 点	普段から生態系や環境について興味をもち、新聞の科学欄に必ず目を通す姿勢を身につける。									

科目名	生命の科学B		科目ナンバリング	L-GENAO-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
	科目コード		G53011			30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 近年の生物学・生命科学は凄まじい勢いで進歩しています。iPS細胞の開発やがん免疫療法などは病気の治療や医療技術の発展に貢献しています。その一方で、生命科学の進歩、特にゲノム編集技術の進歩により、genome-edited babies (ゲノム編集赤ちゃん)の誕生など新たな倫理的問題も生まれています。本講義ではこれらを理解するための基礎的素養を養うこと、および最近の医学や医療・健康に関わる生命科学について学びます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 人間を中心とした側面から生物学・生命科学の基礎知識を学ぶ。 2. 生物学・生命科学を社会との関わりから理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	授業の進め方などの説明。生命科学と現代社会のかかわり		授業の進め方と評価方法の説明、生物・生命科学とは、自然科学とは、21世紀の生命科学							
第2回	細胞：生命の基本単位		生物は細胞からできている、細胞はなぜ小さいのか							
第3回	生命の設計図：ゲノム・遺伝子・DNA		メンデルの遺伝学、メンデルの実験、ヒトで見られるメンデルの法則、なぜ表現型として現れない形質があるのか							
第4回	生命の設計図：ゲノム・遺伝子・DNA		転写のしくみ、遺伝子発現を制御するもの、突然変異となにか？、突然変異の種類、DNAの修復機構							
第5回	ゲノム情報はどのように発現するか		個人差とゲノム、遺伝と環境、SNP							
第6回	ゲノム情報はどのように発現するか		エピゲノムとは、エピゲノムと転写調節、エピゲノムの異常と病気、エピゲノム情報は遺伝する？、Xist非コードRNA							
第7回	複雑な体はどのようにしてつくられるか		発生段階、細胞分化と器官形成、ホメオティック遺伝子、動物の発生と進化、種々の幹細胞と再生医療への応用							
第8回	脳はどこまでわかったか		ヒトの脳の構造、神経細胞、臨界期、記憶と学習の種類、記憶と長期増強、認知症、運動が脳に及ぼす影響							
第9回	がんとはどのような現象か		日本人の死因、細胞増殖および細胞死、発がんがん遺伝子、がん抑制遺伝子、細胞のシグナル伝達、がんの診断と病理および治療							
第10回	食と健康		食べるとは、消化と吸収、エネルギーとATP、食と健康をめぐる最近の話題							
第11回	ヒトは病原体にどのように備えるのか		人類と感染症の戦い、ワクチンの開発、微生物と感染、免疫とは何か、免疫応答のしくみ							
第12回	身体運動の生命科学		生活習慣病、生活習慣病と体力または運動習慣の関係、インスリン抵抗性、身体運動時のエネルギー基質、							
第13回	身体運動の生命科学		運動時のホルモンの変化、骨格筋の糖取り込みに関わるシグナル伝達経路、毛細血管の変化、運動による脳の変化							
第14回	老化		老化とは、老化のメカニズム、老化学説、老化を遅らせることはできるのか？、サプリメントの効果、カロリー制限							
第15回	生命科学技術と生命倫理		バイオ技術としての新しい医薬品生産、ゲノム編集とは、生命倫理とは、生命倫理の原則、生命倫理と宗教、人体の商品化							
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、レポート（100%）により評価する。レポートでは授業で扱った内容についての理解度を問う問題と、その他の問題を出題して、参考文献を用いて事実を記述しているかどうか、また事実をもとにして自らの意見を記述しているかどうか、さらに文章の論理性について評価します。60%（60点）以上を合格とします。									
課題等	レポートの評価基準またはおさえておくべきポイントを、研究室の前の掲示板に掲示する予定です。									
事前事後学修	各回の授業に該当する教科書の部分を読み、わからない単語や専門用語があった場合は調べて、教科書の内容が理解できるように予習（1.5時間以上）と復習（1.5時間以上）を行ってください。また教科書に掲載されていない内容については図書館やインターネット（各省庁の統計データや学術雑誌など）でその情報を調べてください。									
教材教科書参考書	教科書：現代生命科学(第3版)、東京大学生命科学教科書編集委員会、羊土社 ISBN 9784758121033 (必ず購入してください。) 参考書：①カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書、第1巻～第3巻、D・サダヴァ 他著、石崎 泰樹/丸山 敬 監訳・翻訳 ②健康に老いる 老化とアンチエイジングの科学 後藤佐多良 著、東京堂出版 (①、②の参考書は購入する必要はありません。) 参考書：基礎から学ぶ生物学・細胞生物学(羊土社)など多数あります。									
留意点	新聞の科学欄（特に医学・生命科学・医療関係の記事）を読むようにしてください。またMicrosoft Teamsを使用しますので、オンライン授業の準備をしておいてください。									

科目名	科学と現代 A		科目ナンバリング	L-GENAO-05. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53008		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 本講義では、身の回りのもの・現象や新聞・ニュースの科学用語などに題材を取って、科学がどのように役立っているかを実感してもらうことを目標とする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	身近な自然現象、身の周りのハイテク製品、社会を支える科学技術がどのような原理に基づいているのかを学ぶ。また、現代物理の自然観を学ぶ。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	物理学の構成			巨視的世界と微視的世界						
第2回	単位と次元			SI単位系の成立 組立単位と次元				プリント配布		
第3回	力学の法則			運動の三法則 エネルギー保存則と運動量保存則						
第4回	円運動と遠心力			慣性力 等速円運動と遠心力				プリント配布		
第5回	エネルギー			力学的なエネルギー エネルギー保存則とエネルギーの転換				プリント配布		
第6回	振動現象			振動 振り子・パラメーター励振				プリント配布		
第7回	波と電磁波			波の要素・音波 電磁波				プリント配布		
第8回	熱と温度			熱平衡・温度 熱と比熱				プリント配布		
第9回	原子核と放射線			原子と原子核の構造・原子核の崩壊 原子核の崩壊様式と放射線				プリント配布		
第10回	核分裂・核融合			核反応の保存則・核分裂・核分裂連鎖反応と臨界 核融合				プリント配布		
第11回	放射線と医療			放射線の種類・X線撮影・核医学診断画像・ガン治療				プリント配布		
第12回	宇宙進化と元素の起源			宇宙の始まり・宇宙の元素組成・恒星中での元素合成 超新星爆発による核融合				プリント配布		
第13回	素粒子			素粒子の分類・4つの相互作用				プリント配布		
第14回	ニュートリノ			弱い相互作用 ニュートリノ振動とニュートリノの質量				プリント配布		
第15回	重力波			一般相対性理論 重力波とその検出				プリント配布		
評価 方法 及び 評価 基準	試験70%、平常点(授業への取り組み)30%。 試験では基本概念の理解を試す問題を出す。受験しなかった場合成績は未履修扱いとなる。									
課題 等	試験の答えは採点して返却する。									
事前 事後 学修	授業の理解には、一部それ以前の回の理解が必要になるので、復習しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。									
教材 教科書 参考書	必要に応じてプリント配布									
留意 点										

科目名	科学と現代B		科目ナンバリング	L-GENAO-06.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53009		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	坂井 任			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 数学の言葉と技法は、自然現象から経済・社会などの人間活動まで、様々な事象を記述し解析するのに役立っている。計算技術よりも考え方に重点を置いて解説する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	確率・統計の基本的な概念を理解し、考え方を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	確率の基礎		確率の性質 確率の加法定理							
第2回	確率的推論(1)		確率の乗法定理 独立試行							
第3回	確率的推論(2)		ベイズの定理							
第4回	統計学の考え方		統計学の目的・統計学の種類 統計データの整理法							
第5回	代表値と散布度		代表値 散布度							
第6回	正規分布		確率分布・正規分布 正規分布の標準化・正規分布表							
第7回	相関と回帰分析		相関・相関係数 回帰分析							
第8回	推定と検定(1)		母集団と標本 点推定							
第9回	推定と検定(2)		母分散が既知のときの母平均の区間推定 t分布							
第10回	推定と検定(3)		母分散が未知のときの母平均の区間推定							
第11回	推定と検定(4)		母比率の区間推定							
第12回	推定と検定(5)		検定の手順 検定の誤り							
第13回	推定と検定(6)		両側検定と片側検定 母平均の検定							
第14回	推定と検定(7)		母比率の検定							
第15回	試験解答		試験解答					この授業は最終週に行う		
評価方法及び評価基準	試験70%、平常点(授業への取り組み)30%。 試験では基本概念の理解を試す問題を出す。受験しなかった場合成績は未履修扱いとなる。									
課題等	試験の答えは採点して返却する。									
事前事後学習	授業の理解には、それ以前の回の理解が必要になるので、復習しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。									
教材教科書参考書	必要に応じてプリント配布									
留意点	15週目(今年度は1月21日)に試験を行い、最終回に上記第15回の内容を行う予定である。									

科目名	科学と現代C		科目ナンバリング	L-GENAO-07.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53012		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	高橋 未央			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 世界全体の環境変動や地形の形成過程についての解説を通して、身近な地域の地形がどのように形成されたか、世界スケールからみた地域の地形の成り立ちがどのような位置づけにあるかを考察する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	自然地理学の中でも特に地形学の基礎的な方法論・理論を理解し、地形を形成する自然現象についての理解を深める									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	地形図の読み方①（標高）			等高線から標高を読み取る				講義		
第2回	地形図の読み方②（地形断面図）			地形断面図の作成を通して、地形を読む				講義		
第3回	地形図の読み方③（尾根と谷）			尾根・谷の記入を通して、地形を読む				講義		
第4回	空中写真地図の利用			空中写真から地形を読み取る				講義		
第5回	第四紀①			第四紀とはなにか				講義		
第6回	第四紀②			氷期-間氷期サイクル				講義		
第7回	地形輪廻、山地の地形、扇状地			山地と山地の縁辺部に形成される地形				講義		
第8回	自然堤防、氾濫原、デルタ、ベンチ			平野にみられる地形とその形成過程				講義		
第9回	海岸段丘と河岸段丘①			気候変動がもたらす段丘の形成				講義		
第10回	海岸段丘と河岸段丘②			地盤隆起がもたらす段丘の形成				講義		
第11回	断層①			地震断層，活断層と断層地形				講義		
第12回	断層②			地震断層，活断層と断層地形				講義		
第13回	世界の地形と地質			陸地と海底の大地形と地質，プレート運動				講義		
第14回	プレート理論			プレート理論とマントル対流仮説				講義		
第15回	地形の年齢のはかり方			年代や年代測定の方法				講義		
評価 方法 及び 評価 基準	試験，小レポート									
課題 等	各回のおわりに授業のまとめとして小レポートを課す。									
事前事 後学修	事前学習として、シラバスの講義内容を確認して、図書などで調べて授業に参加し、事後学習は、各講義の終わりに、次の授業のキーワードを発表するので、授業内容を復習した上で調べておくこと。									
教材 教科書 参考書	高等学校で使用した（または同程度の）地図帳を、毎回持参すること。教科書は特に指定せず、授業時に資料を配布する。 地形図の判読などで、色鉛筆を使用する。最低でも3色（黄，橙，緑）程度、用意すること。									
留意 点										

科目名	科学と現代D		科目ナンバリング	L-GENAO-08. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	G53013		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	長南 幸安			授業 形態	講義	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 人間の生命を理解する能力を身に付けるため、例えばアミノ酸やタンパク質、糖類などの構造や機能を化学的に理解できるように、原子と分子、分子が持っている基本的な概念を学習し、化学の基礎的な法則や原理を習得します。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>生命科学の現象や仕組みを化学的考え方や方法によって理解できるようになるために、無機化学・物理化学・有機化学の基本を習得する。到達目標は、生命現象を化学的な視点から十分に理解でき説明できるような、基本的な化学の素養を獲得すること。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			ガイダンスとして授業の進め方と評価の説明。						
第2回	原子のすがた①			体を作る物質・原子の構造						
第3回	原子のすがた②			電子配置・電子配置の規則・原子の安定性と価電子						
第4回	「もの」の量の表し方			物質量の表し方あれこれ						
第5回	溶液中にどれだけ物質が存在するか			濃度の種類と定義						
第6回	「もの」の成り立ち①			原子の結合						
第7回	「もの」の成り立ち②			分子の結合・化学反応						
第8回	有機化学①			有機化合物の分類法と表し方						
第9回	有機化学②			生体高分子の構造・消化と酵素						
第10回	水の化学①			からだのなかの液体						
第11回	水の化学②			イオンと電解質						
第12回	からだの中の現象①			浸透現象						
第13回	からだの中の現象②			酸と塩基						
第14回	からだの中の化学反応			化学反応と酵素・代謝・脂質の消化とミセル						
第15回	まとめ			今までの総まとめ						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>期末試験(100%)を評価の基礎点数とし、授業への参加態度などを点数として加減(±20%まで)し、総合的に判断し評価します。</p>									
課題 等	<p>期末試験の採点後の答えは、希望者に開示します。</p>									
事前 事後 学修	<p>学習した内容の復習(問題演習など):1日あたり15分以上 次回の準備学習時間の目安:1日あたり15分以上。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>教科書:「看護系で役立つ 化学の基礎」有本淳一・西沢いづみ 共著 化学同人 ISBN:978-4-7598-1543-6</p>									
留意 点	<p>毎回の出席を原則とします。 高校で「化学」未履修向けのテキストを使用しますので、未履修者や化学が苦手な学生の受講も可能です。 連絡先(e-mail): cho@hirosaki-u.ac.jp オフィスアワー:月～金 8:00～8:30(弘前大学教育学部4-29号室)</p>									

科目名	ヘルスサイエンス論		科目ナンバリング	L-GENAO-09. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	G53014		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	宇田 宗弘			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>健康を保持増進したり、疾病の予防や早期発見と早期治療を行うには、健康や疾病についての基礎知識が必要である。また自分自身の健康のみでなく、家族の健康や職業などで他者の健康にかかわることも考えられることから、健康や疾病の知識を持つことは有益である。本講義は主に身体活動と体力・栄養・休養の視点から健康の保持増進について解説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>人体の臓器(または組織)の基本的な機能を理解するとともに、現在人の健康の保持増進についての基礎知識を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	授業の進め方などの説明、および熱中症について		授業の進め方と評価方法の説明、体温調節、熱中症の分類							
第2回	健康とは、健康問題の概観		健康の概念、統計からみた現代の健康問題、健康問題の発生要因							
第3回	栄養と健康、消化と吸収のしくみ		消化と吸収のしくみ、栄養素の機能、サプリメント							
第4回	栄養と健康		肥満、糖尿病、高脂血症							
第5回	ヒトの心身の健康を知る		健康診断の意義、心の健康・不健康							
第6回	身体活動とエネルギー代謝、筋線維組成		筋収縮のエネルギーとATP供給システム、筋線維タイプ							
第7回	身体活動(身体運動)と呼吸・循環系		身体運動時の呼吸数、心拍数、および酸素摂取量の変化							
第8回	身体活動(身体運動)と健康		体力と健康関連体力、生活習慣病と身体運動							
第9回	身体運動のプログラム		トレーニングの原理・原則、ACSMとWHOによるガイドライン、健康づくりのための身体活動基準2013(アクティブガイド)							
第10回	健康増進施策について		世界の健康増進施策、健康日本21							
第11回	身体運動(スポーツ)による外傷・障害と応急処置		急性損傷、慢性損傷、RICE処置、突然死、過換気症候群							
第12回	アルコール、喫煙、睡眠と健康		アルコールや喫煙による急性・慢性の影響と健康、睡眠の役割							
第13回	アダプテッド・スポーツ		アダプテッド・スポーツとは?、アダプテッド・スポーツの歴史と考え方							
第14回	生物学的女性の健康と医学		性ホルモンの変化と卵巣および月経周期							
第15回	生物学的女性の健康と医学		月経関連疾患(PMS、月経困難症など)							
評価方法及び評価基準	2/3以上の出席者につき、定期試験(100%)によって評価し、60%(60点)以上を合格とします。									
課題等	なし									
事前事後学修	教科書は指定していませんが、各回の授業内容について図書館などを利用して各自で予習(1.5時間)をしてください。また復習として授業で説明した内容やその根拠、関連する事柄、疑問点などについて官公庁の資料や研究論文、書籍などで調べてください(1.5時間)。									
教材教科書参考書	講義時に必要なプリントを配布します。									
留意点	新聞や雑誌の健康に関する記事や生活・科学欄を読むようにしてください。また質問や疑問がある場合は6号館(看護学部棟)の宇田研究室に来てください。									

科目名	地域研究 A		科目ナンバリング	L-GEREO-00. SN	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期集中
			科目コード	G54000		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	島山 篤			授業 形態	講義	単独	
	日本語教員	選択必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 日本の年中行事を通して、地域性を考える。とくに津軽地方の年中行事を取り上げて、他地域の行事との比較により位置づけを行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	地域に伝えられた年中行事から、その地域の特徴を説明することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス 課題の説明			授業の概要について説明する。また、課題についても説明する。				講義形式		
第2回	正月行事① 正月の食			雑煮や、けの汁を通して、食の地域性について考える。事前に大晦日と元日の食について聞き書きしておくこと。						
第3回	正月行事② 七草			人日の行事の歴史を押さえながら、各地の行事を捉える。事前に七草粥について聞き書きしておくこと。						
第4回	正月行事③ 小正月①			津軽における小正月の行事を取り上げて、その特徴を考える。事前に小正月について聞き書きしておくこと。						
第5回	正月行事④ 小正月②			津軽における小正月の行事を取り上げて、その特徴を考える。事前に小正月について聞き書きしておくこと。						
第6回	節分			伝統的な節分行事を押さえながら、近年の恵方巻について考える。事前に節分について聞き書きしておくこと。						
第7回	上巳の節供			三月節供の歴史を捉えながら、津軽地方の行事を考える。事前に上巳の節供について聞き書きしておくこと。						
第8回	端午の節供			五月節供の歴史を捉えながら、津軽地方の行事を考える。事前に端午の節供について聞き書きしておくこと。						
第9回	七夕とねぶた①			七夕行事、および七夕行事として行われるねぶたの歴史を考える。事前にねぶたについて聞き書きしておくこと。						
第10回	七夕とねぶた②			津軽地方のねぶたの地域性について考える。						
第11回	盆行事			地域の盆行事について考える。事前に盆の行事について聞き書きしておくこと。						
第12回	家の年中行事を発表する①			クリスマスや、ハロウィーンなど現代家庭の年中行事を記録し、発表する。指定用紙に書いて発表後、直ちに提出する。字数は任意とする。				プレゼンテーション		
第13回	家の年中行事を発表する②			クリスマスや、ハロウィーンなど現代家庭の年中行事を記録し、発表する。指定用紙に書いて発表後、直ちに提出する。字数は任意とする。				プレゼンテーション		
第14回	まとめ			授業内容に関して、問題を解きながら知識の確認を行う。また、小レポートの返却を行う。						
第15回	振り返り			小テストの返却を行いながら、授業内容の振り返りを行う。						
評価方法及び評価基準	<p>小報告（6回提出）30%、小テスト70% 小報告は行事を正確に記述できたかで評価する。小テストは、2問出題する。授業内容をまとめた上で、自分なりの考察ができたかがポイントになる。</p>									
課題等	①大みそかの食事内容、元日の食事内容、②雑煮の内容、正月七日の食べ物、けの汁（いつ食べるか）、③節分、ひな祭り、④五月節供、七夕、⑤盆、⑥現代家庭の年中行事について、自身が経験したこと、あるいは家族や友人から聞いたことを正確に報告すること。移り変わりも記すこと。用紙はその都度配布し、それに書いて提出すること。課題は返却し、コメントを行う。									
事前事後学修	事前の学習については、上記の授業計画に記した通りである。事後の学習については、ノートを見て復習すること。毎回、事前・事後の学習時間は、90分ずつとする。									
教材教科書参考書	テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。									
留意点	適宜、行事に関して報告してもらう。									

科目名	教養演習 A		科目ナンバリング	L-GELS9-00. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50026		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 視野を上下逆さにするめがねをかけると、当初、つまづいて転んだり、うまく物をつかめず落したりする。その状況を克服していく過程を明らかにする。一人一人が実験者であり被験者。視野を遮蔽するアイマスク事態、視野を制限するピンホール事態を実験圏内に据える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>A. 逆さめがねをかけた当初、障害状況が起こる。その障害状況を打開すること B. その形成過程を理論化すること</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	演習の手順		演習の進め方。実験装置の説明							
第2回	視覚世界の崩壊を体験		アイマスク、逆さめがね、ピンホールを体験							
第3回	場所変えて体験		公園にてブランコ、滑り台、鉄棒の実験							
第4回	過去の実験を参照		前年度の実験成果・報告書の読み合わせ					ディスカッション		
第5回	実験の意義を考える		前年度の実験成果・報告書の読み合わせ					ディスカッション		
第6回	実験の意義を理解した上でもう一度体験		アイマスク、逆さめがね、ピンホールを体験							
第7回	実験課題を決定		実験Group形成							
第8回	視覚剥奪の意味を知る		実験開始。視野遮蔽実験							
第9回	視覚変換の意味を知る		逆さめがね実験							
第10回	視覚制限の意味を知る		視野制限実験							
第11回	報告書作成、議論		報告書発表					プレゼンテーション		
第12回	報告書の作成方法を知る		報告書発表					プレゼンテーション		
第13回	新しい実験を考える		再度、実験							
第14回	もう一度報告書作成		報告書作成							
第15回	自分がしたことをふりかえる		総括。成果発表(Power P.)					プレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	<p>平常点評価50%、実験の企画書、実施、報告書50%。加えて、毎回、実験に関する問題を出して小レポートを課す(50%)。 実験の企画書、報告書では、規格に準じて作成されているか、実験はそれらを踏まえて実施されているかを評価する。</p>									
課題等	<p>企画書と報告書は演習時に全員で討議する。小レポートは演習時に解説する。</p>									
事前事後学修	<p>毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。</p>									
教材教科書参考書	<p>なし。プリント配布。</p>									
留意点	<p>心を込めて企画書と報告書を作成し、実験すること。 連絡先：sasaki@hirogaaku-u.ac.jp オフィスアワー：(木)14：20～15：50</p>									

科目名	教養演習B		科目ナンバリング	L-GELS9-01.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50027		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 視野を上下逆さにするめがねをかけると、当初、つまづいて転んだり、うまく物をつかめず落としたりする。その状況を克服していく過程を明らかにする。一人一人が実験者であり被験者になる。教養演習Aと方針は同じである。視野を遮蔽するアイマスク事態、視野を制限するピンホール事態を実験圏内に据える。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>A. 逆さめがねをかけた当初、障害状況が起こる。その障害状況を打開すること B. その形成過程を理論化すること</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修						備考	
第1回	前期成果を確かめる		演習の進め方、実験装置の説明							
第2回	前期実験を繰り返し新しい意味を見つける		公園にてブランコ、滑り台、鉄棒、実験							
第3回	新しい実験課題をつくる		実験Group形成、新たな問題を設定						ディスカッション	
第4回	実験を自分達で行う		各Group実験開始							
第5回	実験場所を見つけて自分達で行う		屋内歩行実験、報告書						ディスカッション	
第6回	実験場所を見つけて自分達で行う		屋外歩行実験、報告書						ディスカッション	
第7回	屋内と実験結果を比較する		公園歩行実験、報告書						ディスカッション	
第8回	3つの事態の結果を比較する		食事実験、報告書						ディスカッション	
第9回	3つの事態の結果を比較する		楽器演奏実験、報告書						ディスカッション	
第10回	3つの事態の結果を比較する		書字実験、報告書						ディスカッション	
第11回	全実験を比較する、図表をつくる		まとめ							
第12回	次に問題を探す		追加実験、報告書						ディスカッション	
第13回	全経過を眺め、まとめる		全体実験、報告書						ディスカッション	
第14回	発表の技法を考える		総括、成果発表(Power P.)の準備						プレゼンテーション	
第15回	発表の技法を確立する		成果発表(Power P.)						プレゼンテーション	
評価方法及び評価基準	<p>平常点評価50%、実験の企画書、実施、報告書50%。加えて、毎回、実験に関する問題を出して小レポートを課す(50%)。 実験の企画書、報告書では、規格に準じて作成されているか、実験はそれらを踏まえて実施されているかを評価する。</p>									
課題等	<p>企画書と報告書は演習時に全員で討議する。小レポートは演習時に解説する。</p>									
事前事後学修	<p>毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。</p>									
教材教科書参考書	<p>なし。プリント配布。</p>									
留意点	<p>心を込めて企画書と報告書を作成し、実験すること。 連絡先：sasaki@hirogaaku-u.ac.jp オフィスアワー：(木)14：20～15：50</p>									

科目名	教養演習 E		科目ナンバリング	L-GELS9-04. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50030		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ドイツの児童文学作家ミヒヤエル・エンデの代表作『モモ』を読む。「時間」をめぐるストーリーを味読する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	作品の声に耳を傾けて、参加者同士で議論する力を高める。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	第一部 <モモとその友だち>1、2章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第3回	3、4、5章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第4回	第二部 <灰色の男たち>6章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第5回	7章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第6回	8章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第7回	9、10章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第8回	11、12章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第9回	第三部 <時間の花>13、14章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第10回	15、16章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第11回	17、18章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第12回	19章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第13回	20章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第14回	21章		講読、問題提起					プレゼンテーション &ディスカッション		
第15回	まとめ		全体のまとめ							
評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、小論文の内容、論理的構成、表記の正確さによって行う。									
課題等										
事前事後学修	教科書の該当箇所を事前に一読し、内容を把握しコメントを準備しておくこと。3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『モモ』（ミヒヤエル・エンデ、大島かおり訳、岩波少年文庫、本体880円、ISBN978-4001141276）									
留意点	初回時、教科書必ず持参すること。									

科目名	教養演習 F		科目ナンバリング	L-GELS9-05. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50031		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 文法項目をスピーディーに総復習しつつ、旅行で使える会話実用表現を中心に学ぶ。また、現代フランスを政治、経済、文化などの観点から眺めてみる。毎週担当者を決めて、各自興味をもつ「フランス事情」に関する短いプレゼンの時間も設定する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	文法を正確に理解すること（CEFRのA2レベル）。また、フランス社会を理解する基礎知識を得ること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス			発音の基礎						
第2回	国籍や職業をたずねる			主語人称代名詞、基本動詞						
第3回	様々な-er動詞			基本動詞、否定文						
第4回	好きなものをたずねる			名詞と定冠詞						
第5回	「どこで」「だれと」をたずねる			疑問詞、不定冠詞						
第6回	所有を表現する			形容詞						
第7回	様々な活動について話す			否定の復習						
第8回	食事について話す			部分冠詞						
第9回	よく行く場所について話す			前置詞、人称代名詞・強勢形						
第10回	習慣についてたずねる			代名動詞						
第11回	計画についてたずねる			近未来						
第12回	行きたい場所についてたずねる			命令形						
第13回	過去の出来事についてたずねる			複合過去						
第14回	一日の行動を話す			半過去						
第15回	まとめ			文法項目のまとめ						
評価方法及び評価基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト（50%）。テスト（文法の基礎について）の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前事後学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材教科書参考書	『 <i>Dis-moi tout!</i> 』（Lena Giunta, Tomohiko Kiyooka, 白水社 音声ダウンロード、本体2600円、ISBN978-4-560-06140-4）									
留意点	未習者は相当の努力が必要。									

科目名	教養演習 G		科目ナンバリング	L-GELS9-06. S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50032		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 古代ローマ帝国の公用語であり、中世から近代初頭にいたるまでカトリック教会を中心とする全ヨーロッパの知識層の共通言語であるラテン語を学ぶ。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	できるだけ多くの文法項目を理解し、ラテン語の文章を正確に日本語訳できるようになること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	ガイダンス			文字、発音、音節とアクセント						
第2回	現在直説法能動相、第一、第二活用			左記項目を学ぶ						
第3回	名詞、第一活用			左記項目を学ぶ						
第4回	動詞、第三、第四、第五活用			左記項目を学ぶ						
第5回	名詞、第二活用（1）			左記項目を学ぶ						
第6回	形容詞活用、第一、第二活用（1）			左記項目を学ぶ						
第7回	未完了過去直説法能動相			左記項目を学ぶ						
第8回	名詞、第二活用（2）			左記項目を学ぶ						
第9回	形容詞活用、第一、第二活用（2）			左記項目を学ぶ						
第10回	未来直説法能動相			左記項目を学ぶ						
第11回	前置詞、所格、eo			左記項目を学ぶ						
第12回	不定詞、sum, possum			左記項目を学ぶ						
第13回	名詞、第三活用（1）			左記項目を学ぶ						
第14回	形容詞、第三活用（1）			左記項目を学ぶ						
第15回	完了直説法能動相			左記項目を学ぶ						
評価方法及び評価基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト（50%）。テスト（文法の基礎について）の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前事後学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材教科書参考書	『ラテン語初歩 改訂版』（田中利光著、岩波書店、本体3400円、ISBN978-4000024198）									
留意点	毎週多くの課題があり、その課題は翌週の授業時間内で点検される。									

科目名	教養演習H		科目ナンバリング	L-GELS9-07.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目コード	G50033		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 文法項目をスピーディーに総復習しつつ、旅行で使える実用表現を中心に学ぶ。また、現代ドイツを政治、経済、文化などの観点から眺めてみる。毎週担当者を決めて、各自興味をもつ「ドイツ事情」に関する短いプレゼンの時間も設定する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達 目標	文法を正確に理解すること。また、ドイツ社会を理解する基礎知識を得ること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス、発音練習			綴りと発音を理解する						
第2回	人称代名詞、動詞の現在人称変化			動詞の変化を学ぶ						
第3回	名詞と性、定冠詞、不定冠詞			格変化を学ぶ						
第4回	人称代名詞			格変化を学ぶ						
第5回	前置詞、否定表現			kein, nicht の用法						
第6回	形容詞			格変化を学ぶ						
第7回	従属接続詞			従属接続詞を用いた文を学ぶ						
第8回	話法の助動詞			用法を学ぶ						
第9回	動詞の3基本形			不定詞、過去基本形、過去分詞を学ぶ						
第10回	現在完了			用法を学ぶ						
第11回	分離動詞、非分離動詞、再帰動詞			用法を学ぶ						
第12回	関係代名詞			関係代名詞を用いた文を学ぶ						
第13回	受動文			用法を学ぶ						
第14回	接続法			用法を学ぶ						
第15回	まとめ			全体のまとめ						
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度（50%）、小テストおよび期末テスト（50%）。テスト（文法の基礎について）の評価は正解獲得点数によって行う。									
課題 等	課題は翌週の授業時間内で点検される。									
事前事 後学修	文法問題が課題として与えられる。3時間程度必要。									
教材 教科書 参考書	『Alternativ Deutsche Grammatik als zweite Fremdsprache』（Michio Kamitake, 郁文堂、CD付2600円、ISBN9784261012606）									
留意 点	未習者は相当の努力が必要。									

科目名	教養演習Ⅰ		科目ナンバリング	L-GELS9-11.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目コード	G50037		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名					授業 形態	演習	単独
授業 の 概要 等	〔授業の主旨〕 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。									
到達 目標										
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	今年度開講せず									
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価 方法 及び 評価 基準										
課題 等										
事前事 後学修										
教材 教科書 参考書										
留意 点										

科目名	教養演習 Q		科目ナンバリング	L-GELS9-16.S	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期集中
			科目コード	G50042		30時間				
区分	一般教育科目	選択必修	担当者名	(コンソーシアム)			授業 形態	演習	オムニバス	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本授業は、大学コンソーシアム学都ひろさきの「共通授業」として開講されるもので、弘前市内の大学生が集まり、自分たちの住む地域の様々な課題を学び、課題解決に向けて話し合う。大きなテーマは次の3つ。</p> <p>①弘前市の健康長寿と食生活、②病気を抱える子どもの成長と援助の課題、③若者にとって魅力あるまちづくり</p> <p>授業では、1日1課題(テーマ)について担当教員、弘前市職員、民間企業社員から、地域の様々な課題についてオムニバス形式で授業を実施し、その解決策についてのグループディスカッション、グループワーク等を行い発表する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-2に関連している。</p>									
到達目標	<p>① 地域の状況を具体的に理解できるようになる</p> <p>② 地域の課題解決のために、学生ができることは何かを考えることができるようになる</p> <p>③ 各テーマに対して、自分の考えを述べることができるようになる</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	弘前市の健康長寿と食生活①			①生活習慣病予防の栄養学(講義)						
第2回	弘前市の健康長寿と食生活②			②自分の食と健康を振り返る(演習)						
第3回	弘前市の健康長寿と食生活③			③弘前市の健康課題について(講義)						
第4回	弘前市の健康長寿と食生活④			④地域の健康づくり新提案を考える(演習)						
第5回	弘前市の健康長寿と食生活⑤			⑤弘前市の健康長寿プランの発表						
第6回	病気を抱える子どもの成長と援助の課題①			①病気が成長する子どもに与える影響						
第7回	病気を抱える子どもの成長と援助の課題②			②病気の子どもが成長していくうえで抱える現状と問題(ゲスト)						
第8回	病気を抱える子どもの成長と援助の課題③			③グループワーク(現状を考える)						
第9回	病気を抱える子どもの成長と援助の課題④			④グループワーク(今後についてを考えて私たちができること)						
第10回	病気を抱える子どもの成長と援助の課題⑤			⑤ワーク発表・講評						
第11回	若者にとって魅力あるまちづくり①			①まちづくり・地域活性化の概要・事例紹介						
第12回	若者にとって魅力あるまちづくり②			②弘前市のまちづくり施策(ゲスト講師:弘前市企画課)						
第13回	若者にとって魅力あるまちづくり③			③ワークショップ(アイデア出し)						
第14回	若者にとって魅力あるまちづくり④			④ワークショップ(具体案とりまとめ)						
第15回	若者にとって魅力あるまちづくり⑤			⑤発表、討論、投票						
評価方法及び評価基準	期末評価(最終レポート):100%									
課題等	フィードバックとしてレポートについてコメントを返す									
事前事後学修	各テーマに関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。準備学習時間の目安:1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	特に指定しない。必要に応じて資料などを配布する。									
留意点	普段から「広報ひろさき」などにも目を通し、地域においてどのようなことが行われているのか、関心を持つようにすること。授業内容が変更になる可能性があるため変更があった場合は適宜連絡を行う。									